

事業活動実績報告書

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

1 事業名	音色やりズム、音楽に親しむ～鍵盤ハーモニカ演奏を通して
2 実施期間	令和 7 年 4 月 17 日 ～ 令和 8 年 3 月 13 日

3	取組概要	(取組日) 令和7年 4月 7 日 ～ 令和 7年 5月 31 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		鍵盤ハーモニカとの出会い(年中) 唄口あそび 鍵盤の観察 音遊び(身近な音に例えてみる) 歌の音階への変換(ドレミで表現する) 指番号を知る(1～5)	
		(取組日) 令和 7年 4月 7日 ～ 令和 7年 5月 31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年長) これまでの曲を弾いてみる。 新しい曲に挑戦する「みつばちまーち」 音階で歌ってみる 指を動かしてみる	
(取組日) 令和 7年 6月 1日 ～ 令和 7年 7月 31日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
簡単な曲を弾いてみる(年中) 「だいすきなばん」「つなひきぞうさん」を弾いてみる。 音階で歌う。 指番号で弾いてみる。			
(取組日) 令和 7年 6月 1日 ～ 令和 7年 7月 31日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
レパートリーに取り組む(年長) これまでの曲を弾いてみる。 新しい曲に挑戦する「ちょうちょう」「ゆかいなまきば」 音階で歌ってみる 指を動かしてみる			
(取組日) 令和 7年 9月 1日 ～ 令和 7年 11月 30日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
レパートリーに取り組む(年長) これまでの曲を弾いてみる。 新しい曲に挑戦する「ちょうちょう」「ゆかいなまきば」 音階で歌ってみる 指を動かしてみる			

3	取組概要	(取組日) 令和 7年 9月 1日 ~ 令和 7年 11月 30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年長) これまでの曲を弾いてみる。 新しい曲に挑戦する「ちょうちょう」「ゆかいなまきば」 音階で歌ってみる 指を動かしてみる	
		(取組日) 令和 7年 12月 1日 ~ 令和 8年 1月 31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年中) これまでの曲を弾いてみる。 新しい曲に挑戦する「チューリップ」 音階で歌ってみる。 指を動かしてみる。	
		(取組日) 令和 7年 10月 1日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		カスタネットでリズム遊びをする(年少) 正しい装着の仕方を知る。 好きなように叩いてみる。 みんなで合わせてたたいてみる。 歌に合わせてたたいてみる。	
		(取組日) 令和 7年 12月 1日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年長) これまで触れてきた楽器と合わせて合奏をする。 「よるこびのうた」 それぞれのパートを決め、パート練習を行う。 合奏を発表する。	
		(取組日) 令和 8年 1月 9日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年長) 新しい曲に挑戦する。「思い出のアルバム」 これまでの曲の振り返りをする。 自分の好きな曲を見つける。 友だちと一緒に奏でることを楽しむ。 保護者の前で発表する。	
		(取組日) 令和 8年 1月 9日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		レパートリーに取り組む(年中) これまでの曲を弾いてみる。 自分たちの好きな曲を探す。 クラスごとに曲を決めて練習する。 保護者の前で発表する。 リズムを合わせてみる。(年少) 曲に合わせて、歌いながらカスタネットをたたいてみる。 保護者の前で発表する。	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

	事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）				
		健康	人間関係	環境	言葉	表現 ◎
計画時	1 事業名	音色やリズム、音楽に親しむ～鍵盤ハーモニカの演奏を通して				
	2 事業概要	打楽器、メロディ楽器をもちいて、様々な音やものを表現し、音楽表現を楽しむ。				
	3 対象学級(クラス名) 対象人数	3才児、4歳児、5歳児(クラス名:きいろ組、もも組、あお1組)				125 名
	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 音楽指導教員、クラス担任教諭 年齢に合わせた楽曲の選定を行い、楽しみながら音楽表現をする。 年度が進んだころには、演奏を他者に聞いてもらう機会を持つ。				
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 音楽指導員は、専門知識も必要のため、早めの日程確保が必要である。年少児から音やリズムに触れていくことで、無理なく鍵盤ハーモニカへの活動に移行できる。演奏を発表する機会は、子どもたちにとって、練習を頑張ってみる、発表を楽しみにするなど、有意義なため続けていきたい。				
計画時	5 事業のねらい	歌は子どもたちの声が楽器になる、打楽器はリズムを体や手足で奏でることができる、メロディ楽器は指先や、口でかなでることができる。いろいろな楽器に触れることで、音の不思議や、音程、ピッチを直接感じるができる。 幼いうちにいろいろな楽器に触れて音色やリズムに楽しみながら親しんでいく。 楽しんだり親しんだりして、音楽表現、メロディ演奏、合奏につながり、音楽の楽しさを知る。				
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 歌から始まり、リズムを合わせ、楽器で旋律を奏でるというステップは無理なく音楽に親しんでいくために必要であるため、たくさんの歌や音楽に触れていくようにする。				

計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等
		鍵盤ハーモニカの演奏を主軸にして、音や音楽の楽しさを感じてもらう。楽器の集まる保育室(仮に音楽ルームとする)におもむき、いろいろな楽器に触れてみる。楽器にはリズム楽器とメロディ楽器があり、それぞれの役割を身をもって経験してみる。 鍵盤ハーモニカ演奏では、恒常的にレパートリーを増やしてメロディを奏でる楽しさを感じてもらう。
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ○生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 ○いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 ○音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 これまで、年少児はカスタネットでリズムに親しみ、年中児で鍵盤ハーモニカに触れてきたが、年中児以上の2学年で多くの種類の打楽器や、メロディ楽器に触れて音での表現や、音楽の楽しさをさらに感じてもらいたい。
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 対象を年少児にも拡大するが、鍵盤ハーモニカの導入は年中児からにする。年少児は日常親しんでいる歌にリズムを取り入れ、カスタネットでのリズム遊びを取り入れる。
計 画 時	7 環境構成例	事業実績から推測される効果や改善点等 ○鍵盤ハーモニカ演奏は各保育室でゆったりと行う。 ○音楽ルームでは、クラスごとに様々な楽器に触れて、音楽に親しむ。 ○年長児は、それぞれの種類の楽器に触れていき、年度が進んだころには合奏の経験をする。 ○学年ごとに発表の機会を持ち、練習に励んだり、発表することに期待を持てるようにする。 使用できる楽器: 鍵盤ハーモニカ、カスタネット、大太鼓、小太鼓、鉄琴、アコーディオン、タンバ、鈴、トライアングル、ハンドベル、マラカス、スレーベル、木琴、
		事業実績から推測される効果や改善点等 鍵盤ハーモニカ演奏は、20名程度の子どもたちのいる各保育室で行うことで、子どもそれぞれの旋律を聞くことができる。発表の機会を持つことで、もっと上手になりたい、もっと練習してみたいという意欲につながる。様々な楽器に触れることで、リズムと旋律の違いを感じ、それらを合わせたときのハーモニーを感じることができる。
事 業 後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 年少児はたくさんの歌に触れていき、カスタネットでリズムを楽しむことができた。年中になるとそれを基礎に、鍵盤ハーモニカでの表現に移行するのにもよかった。年長児になると、音階などの感覚も身につき始め、自分からメロディを奏でる様子もうかがえた。
		7についての効果・検証 鍵盤ハーモニカ演奏は、20名程度の子どもたちのいる各保育室で行うことで、子どもそれぞれの旋律を聞くことができる。発表の機会を持つことで、もっと上手になりたい、もっと練習してみたいという意欲につながる。様々な楽器に触れることで、リズムと旋律の違いを感じ、それらを合わせたときのハーモニーを感じることができる。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ○幼児期に身近にある歌を歌うことから始まり、ハーモニーを合わせること、リズムを合わせることによって、他を思いやったり、協調性が豊かになる。 ○指先で奏でることで、巧緻性が育まれる。 ○いろいろな楽器に触れてみたり、挑戦しようという意欲が増える。 ○打楽器、メロディ楽器それぞれの役割を知り、音楽に興味関心の厚い児童が増える。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 歌や、リズムから親しみ、鍵盤ハーモニカへの移行は年中児がちょうどよい。年少児の歌への親しみ度合いが基礎として大切なので、引き続き歌に親しむことを行っていく。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 幼児期に歌や簡単な楽器を用いて音楽に触れていくことは、豊かな感性を育むことに資するので、今後も引き続き行っていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。